

# 人とクマのために働く犬 日本で唯一のクマ対策犬タマ&ナヌック



人とクマとの共存を目指すピッキオ(長野県軽井沢/代表:栗田慎也)は、2004年~2013年に活躍した初代ベアドッグ(クマ対策犬)に続き、2代目のベアドッグ2頭を導入します。

## ■クマを傷つけずに人を守るベアドッグ

ベアドッグは、クマの匂いを察知する特別な訓練を受けた犬です。人家などに接近しようとするクマを大きな声で吠え立て、森の奥に追いやること(「追い払い」)ができます。

ピッキオは2004年にアメリカのベアドッグ育成機関Wind River Bear Institute(WRBI)より、アジアで初めてとなるベアドッグを導入。追い払いによって、軽井沢町内でクマの目撃を減らしてきました。

クマを傷つけることなく、人の居住エリアから遠ざけることができるベアドッグは、人とクマとの共存をめざす軽井沢町とピッキオにおいて、非常に重要な役割を担ってきました。しかし、2013年4月に初代ベアドッグが病気で急死。約2年、ベアドッグが不在の状態が続いていました。

## ■2頭体制でさらに充実した対策に

初代ベアドッグの急死を受け、多くの企業、団体、個人の方から温かいご支援をいただきました。そしてこの度、2代目となるベアドッグ、「タマ」と「ナヌック」の2頭を迎え入れることになりました。今後は2頭体制になることで、より迅速で効果的な追い払いが可能になります。



左)タマ&田中純平 右)ナヌック&大嶋元

## ■深い絆で結ばれるベアドッグとハンドラー(飼育士兼訓練士)

ベアドッグは誰にでも扱える犬ではなく、専任ハンドラーが1対1の関係を築いて訓練等にあたります。今回導入する2頭は、それぞれをベテランと新人の2人のハンドラーが担当。今後、深い絆で結ばれるパートナーとなります。

### タマ&ベテランハンドラー田中純平

初代ベアドッグのブレット(bullet=弾丸)にちなみ、WRBI代表のキャリー・ハント氏により、弾(たま)と命名されました。匂いを嗅ぎ取る能力に優れたメス犬で、ナヌックとは一緒に生まれたきょうだいです(2014年3月26日生まれ)。田中はブレットのハンドラーを努めたベテランとして、より効果的な対策の開発に意欲を燃やしています。

### ナヌック&新人ハンドラー大嶋元

ナヌックとはイヌイット語でクマを意味します。大嶋は、学生時代をカナダの北極圏で過ごし、イヌイットの人々とも親交があったため、クマとの共存への思いを込めて名付けました。ナヌックはオス犬で、きょうだい犬の中でも体格が大きく、些細なことに動じず、クマに対峙することができそうです。

## ■10月8日(木)軽井沢に到着

2頭のベアドッグは2015年10月8日深夜に軽井沢にやってくる予定です。なお、地域の方やご支援をいただいたみなさまへのお披露目として「タマ&ナヌックふれあい会」を行います。

『タマ&ナヌックふれあい会』10月12日11:00~11:30  
ピッキオビジターセンター(軽井沢町星野)



生後1ヶ月のタマ

## ■ピッキオ

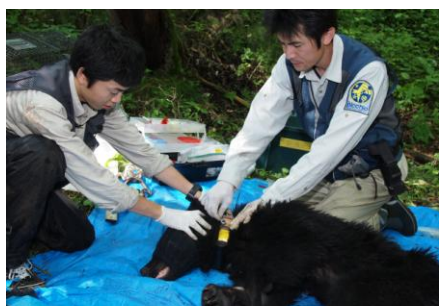
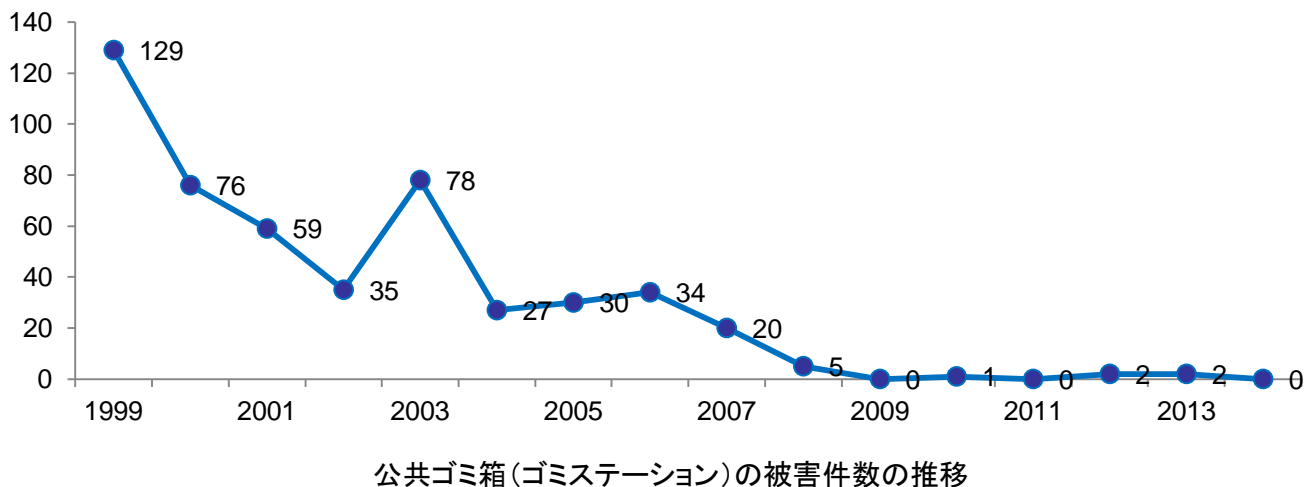
「森本来の姿を経済的な価値として高く評価できれば、未来に森を残していける」という理念の下、軽井沢を拠点に、野生動植物の調査およびツキノワグマの保護管理、自然の不思議を解き明かすエコツアーを行っています。

## 【このリリースに関するお問合せ】

星野リゾート グループ広報  
TEL:03-5159-6323 FAX:03-6368-6853  
mail:pr-info@hoshinoresort.com

## (1) 人とクマとの共存をめざすピッキオの取り組み

ピッキオでは「人の安全を守ること」と「軽井沢のクマを絶滅させないこと」の両立を目指しています。その具体的な対策として、軽井沢町の委託を受け、電波発信機を使ったクマの行動調査や、クマに荒らされないゴミ箱の開発等を進めてきました。その結果、1998年頃に年間100件を超えていた、軽井沢町内での公共ゴミ箱の被害は2009年に0件になり、現在まで年間0～2件で推移しています。



【電波発信機の装着】

クマの身長・体重等を計測し、首輪型の電波発信機を取り付けます。DNA解析のための毛根採取も行います。



【学習放獣】

電波発信機を装着したクマを人や犬の大声、ゴム弾などで威嚇し、人や犬への恐怖を覚えさせて森に戻します。



【個体追跡】

電波を受信してクマの位置を特定。被害の予防に役立ってます。被害を出していないクマを間違って駆除しないためにも重要です。



【野生動物対策ゴミ箱】

人には簡単に開けられますが、クマには絶対に開けられない鉄板製のゴミ箱です。開かないことを学習したクマは、やがて近づかなくなります。

## (2) ベアドッグの仕事

### ● 追い払い

最も重要な仕事のひとつです。電波発信機からの電波を元に、クマの現在位置を特定。人の居住エリアに接近している場合は、ベアドッグが大きな声で吠えて、クマを森の奥に追い払います。ベアドッグが好き勝手な方向にクマを追いかけないよう、必ずハンドラーが同行し、方向をコントロールします。

### ● 移動経路の特定

クマの出没情報を元に現場に駆けつけても、すでにクマは姿を消していることがあります。そのような場合でも、匂いを元にクマの移動経路を特定できるので、付近の安全を確認したり、進入経路を遮断する方法を提案したりすることができます。

### ● スタッフの安全確保

発信器未装着のクマが付近に潜んでいた場合も、ベアドッグは匂いを察知してクマの存在を知らせてくれます。このため、夜間を含め、スタッフは安全に活動することができます。

### ● 教育・普及活動

ピッキオでは、学生(小学校～大学・専門学校)や地域住民の方を対象に、クマの生態を学び、被害に遭わないために必要な知識を得ていただくための講座や出張授業などを行っています。ベアドッグはこのような場に同席し、人とクマの共存を呼びかける親善大使の役割を担っています。



## (3) ベアドッグに適した犬種 = カレリア犬

ベアドッグに用いているのは、フィンランドとロシアの国境地帯を原産とする「カレリア犬(カレリアン・ベアドッグ)」という犬種です。ヒグマ猟のための犬ですが、クマに襲いかかることはせず、大きな声で吠え立てて、クマを木の上などに追いつめることが得意です。この性質は、クマを傷つけずに森の奥へ追い返す「追い払い」に非常に向いています。ただ、すべてのカレリア犬がクマ対策犬になれるわけではありません。WRBIでは、子犬のうちから様々な適性検査を行い、資質があるもののみをクマ対策犬として育成しています。現在、ベアドッグの育成プログラムが確立しているのはWRBIのみです。

なお、カレリア犬は、独立心が強く、吠え声の大きな大型犬であるため、一般家庭での飼育には不向きな犬種であるとされています。

## (4) 初代ベアドッグ ブレット

ブレットは日本初のベアドッグとして2004年にWRBIからやって来て以来2013年4月に死亡するまで、400回以上におよぶ「追い払い」を行い、軽井沢町内におけるクマの目撃件数を大幅に減少させることに貢献しました。

また、ブレットは、軽井沢町内の小学校で行われるレクチャーなどに同行し、地域子ども達に対する環境教育にも関わってきました。ブレットの活動は、児童書「クマを追え！ブレット」(学研パブリッシング 2012年刊)になり、多くの方に親しまれてきました。

